

益田市の未来を担うひとづくり計画

平成 27 年 12 月
益田市

目次

第1部 益田市の未来を担うひとづくり計画の策定にあたって	
1-1. 計画策定の意義	4
1-2. 益田市を取り巻く社会動向	6
1-3. 益田市の子どもたちの現状	10
第2部 基本とする考え方 ～人生観を育むライフキャリア～	
2-1. これからの教育観	19
2-2. 人生観を育むライフキャリア教育へ	22
2-3. ライフキャリアを育む経験・感性・力	24
2-4. 地域人材を創出していくサイクル	25
2-5. 益田市版ライフキャリア教育プログラム概要	25
2-6. プログラム例	27
第3部 益田市の未来を担うひとづくり計画実施にあたって	
3-1. 計画実施にあたっての要点	32
第4部 資料	
4-1. 本計画ができるまで	34
4-2. ひとづくり計画策定委員会名簿	35

第 1 部

益田市の未来を担うひとづくり計画の策定にあたって

1-1. 計画策定の意義

①益田市「ひとづくり協働構想」について

本市においては、これまでも産業振興としてのキャリア教育や地域振興施策としてのリーダー養成、また社会教育事業としての学びの場づくりを行ってきましたが、これらの取り組みがばらばらなものとなれば施策効果も十分に発揮されないことから、それぞれの取り組みをライフステージごとに体系立て、施策効果を最大限発揮させるため「ひとづくり協働構想」を策定し、取り組むこととしました。

「ひとづくり協働構想」において目指すひとの姿は以下の通りです。

- ・将来の益田市を支えるため、自らの可能性を広げることのできるひと。
- ・しごとを継続発展させるひと。しごとを創りだせるひと。
- ・地域のひとと協力し、地域を支えるひと。地域の資源を活かせるひと。

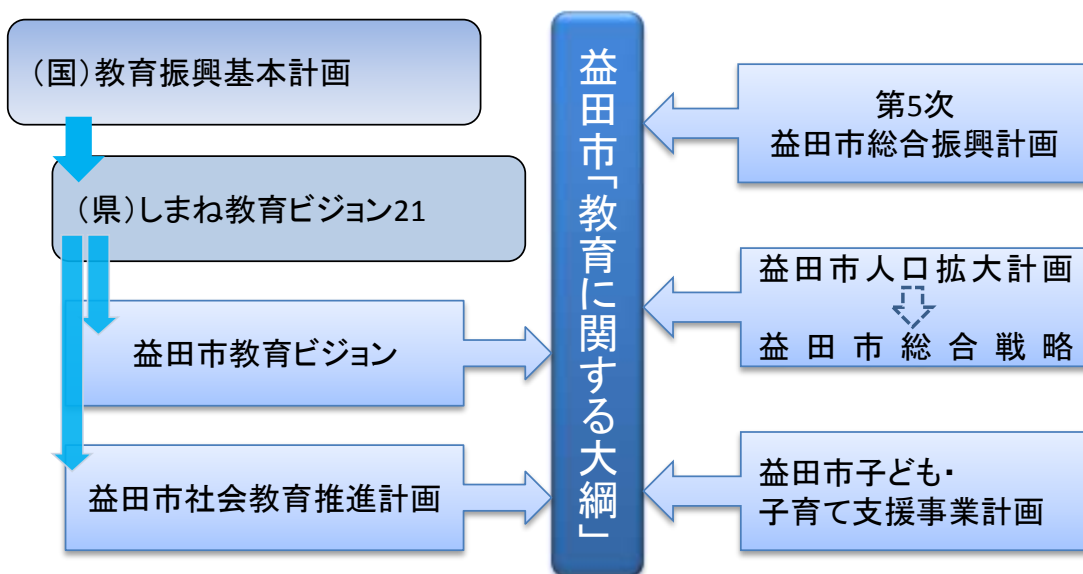
②益田市「教育に関する大綱」との関連性

本市では、「ひとが育つまち益田」の実現を目指し、次世代を担う子ども達が安全で安心して学習できる教育環境の整備と、益田で培った才能を益田で発揮できる環境の整備に向け、市長と教育委員会が連携し、早期かつ重点的に取り組む施策の指針として、益田市「教育に関する大綱」を策定しました。

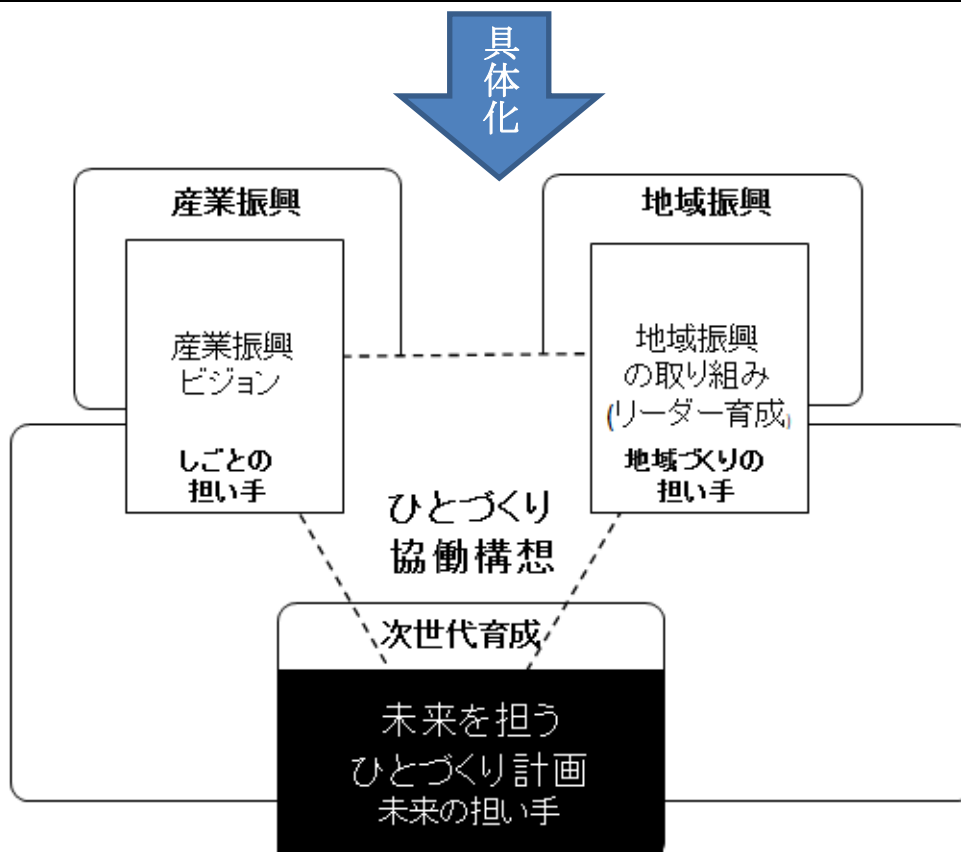
「ひとづくり協働構想」は、この大綱における重点項目や方針を、より具体的な施策展開へ結びつけるものとしても位置づけを行っています。

③「ひとづくり協働構想」における本計画の位置づけ

これまでも様々な場で行われてきた「ひとづくり」を体系化するものです。新たな視点として「生き方を学ぶための沢山の選択肢」を提供し、キャリア教育に取り組みます。また、幼児期から青年期までを対象に地域づくりへの参画など幅広い取り組みを行います。また、産業振興ビジョンや地域振興分野の施策とも連携することで、「ひとづくり協働構想」において目指す人の姿を実現させます。



重点項目	方針
学力向上を支えるための 施策の推進	ICTや学校図書館を活用した教育などにより、確かな学力を身に付けるとともに、学習意欲を高め学習習慣を定着させる「学び舎ますだ」などの取り組みにより、子ども達の将来への視野を広げ、可能性を伸ばします。また、子ども達が安全に安心して学ぶための教育環境を整備します。
教育と子育て支援の一体化	就学前と就学後、学校での学習時間と放課後、夏休みなどの長期休業中と通常の学期中など、子ども達を支える担い手と公的部門が現状では分化しています。それらの一体化を図り、同じ目的意識のもとで、学校施設を有効に活用し子ども達を育む機能を高めます。
ふるさと教育の推進	ふるさと益田に深い愛着を持ち、このまちで培った才能を内外で発揮できる子ども達を育てるとともに、特に、益田で活躍したいと強く意識できるように子ども達の成長を支えます。また、身近に豊かな文化芸術にふれることで、より郷土愛と人間性を育む機会を充実させます。
キャリア教育・起業家教育 による人材の育成	職業に関する教育や職場体験により、地元の企業や地元で活躍している経営者や事業家に接する機会を充実させることで、「この地で活躍する自分の将来像」を思い描けるように、将来の益田を担うことのできる人材育成を推進します。

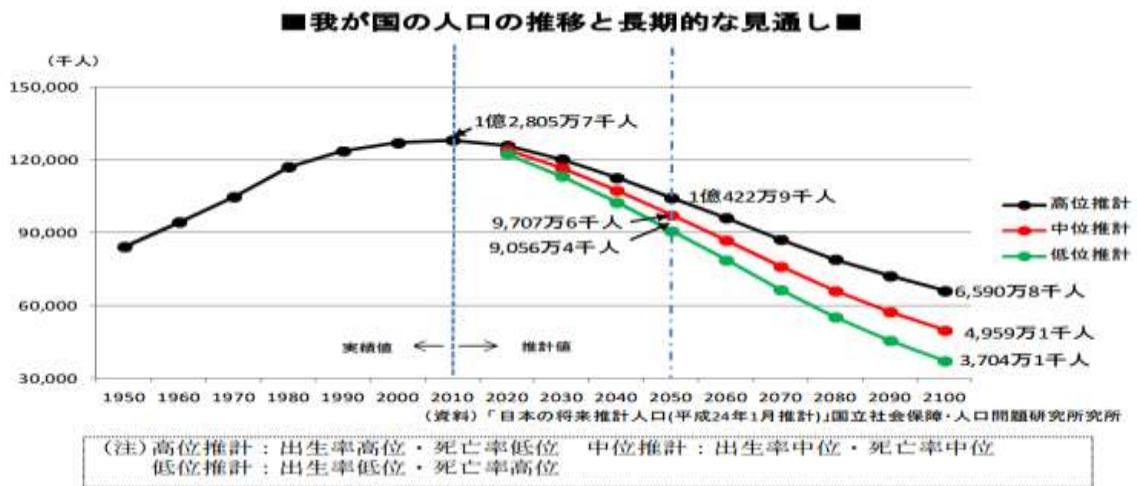


1-2. 益田市をとりまく社会動向

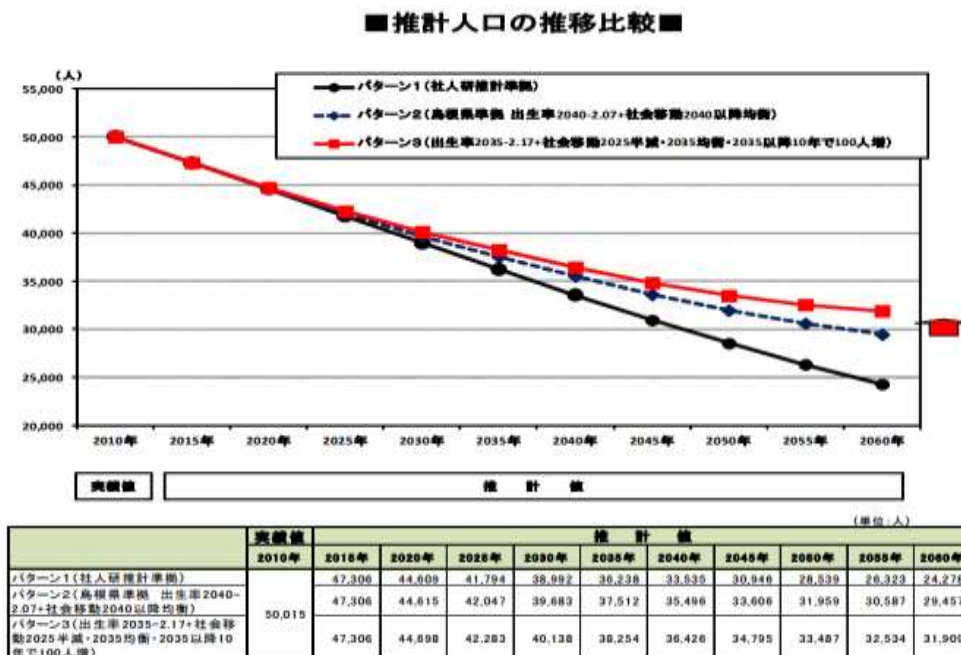
①人口減少と本格的な持続可能社会への転換

我が国の人口は、2008年(平成20年)をピークに減少に転じ、2050年(平成62年)には1億人を下回ると予測されています。2014年に日本創生会議が公表したレポートでは、地方都市の少子高齢化や過疎化の影響は国全体にも及ぶことに警鐘が鳴らされました。政府においても「地方創生」「東京一極集中の是正」を柱に、地方における持続可能な地域づくりや行政施策の展開が模索されています。

[図 日本の人口推計]



[図 益田市の人口推計]



(資料)内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供資料を基に作成

[図 持続可能社会でのキーワード]

高度成長社会	持続可能社会
経済成長(GDP)・物の豊かさ	幸福度(GNH)・暮らしの豊かさ
ファースト・早い安い便利	スロー・安心安全健康
大量生産・大量消費・規格品・使い捨て・フリートレード	少量多品種・高付加価値・4R・循環型・フェアトレード(※1)
グローバルビジネス(※2) ビッグビジネス(※3)	ソーシャルビジネス(※4) コミュニティビジネス(※5)
古きを壊し、新しきを造る Scrap&Build(※6)	古きを活かし、新しきを紡ぐ 温故知新・Renovation(※7)
競争・占有・対立・勝ち負け	共創・共有・協働・三方よし
一極集中・中央集権型	自律分散・ネットワーク型



地方の過疎化 疲弊化 画一化	教育 地域の魅力化 多様化
---	--

※1「フェアトレード」発展途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することを通じ、立場の弱い途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す運動。

※2「グローバルビジネス」全世界的に事業展開を行うこと。

※3「ビッグビジネス」巨大企業。

※4「ソーシャルビジネス」環境・貧困などの社会的課題の解決を図るための取り組みを持続可能な事業として展開すること。

※5「コミュニティビジネス」地域の住民を中心に組織し、企業や行政機関の対応しにくい、生活者の需要を掘り起こして展開する事業。

※6「Scrap & Build」行政機構における膨張抑制の方法の一つ。組織の新設にあたっては、同等の組織の廃止を条件とすること。

※7「Renovation」既存のシステムの一部を利用したり、それを創造的に破壊することによって新しいシステムを構築すること。

②一極集中から自律分散・協働型ネットワーク社会へ

都市への人口流出が続く一方、自然豊かな農山漁村への回帰の流れも現れ始めています。生活様式の変化や住民ニーズの多様化、住民のまちづくりへの参画の意識の高まりなどから、従来の地縁組織だけでなく、新たな市民活動の形として、NPO法人や趣味を通じた市民団体などが増えてきています。これらの団体は、社会情勢の大きな変化に的確に対応するための協働の担い手として、大きな期待を受けています。

東京の一極集中を是正し、地方の人口流出に歯止めをかけ、自立した地域経済を確立するためにも、日々の暮らしに必要な機能を複合拠点化することで、適切なネットワーク化をはかったり、単体の集落では難しいものは、広域的に連携することで解決するなど、地域を次世代につないでいく取り組みが求められています。

また、これまでは、分野縦割りで管理・運用されていた公共施設も、さまざまな分野で活用できるような拠点として期待されるようになり、それは学校施設においても例外ではありません。

近年では小学校区(もしくは昭和の大合併前の旧村単位)程度の小規模コミュニティを見直し、地縁を基盤にした住民主体の自治をすすめていく動きも活発になっており、益田市においても、公民館エリアを基本として、地域自治組織の設立を目指す取り組みが各地区で行われています。

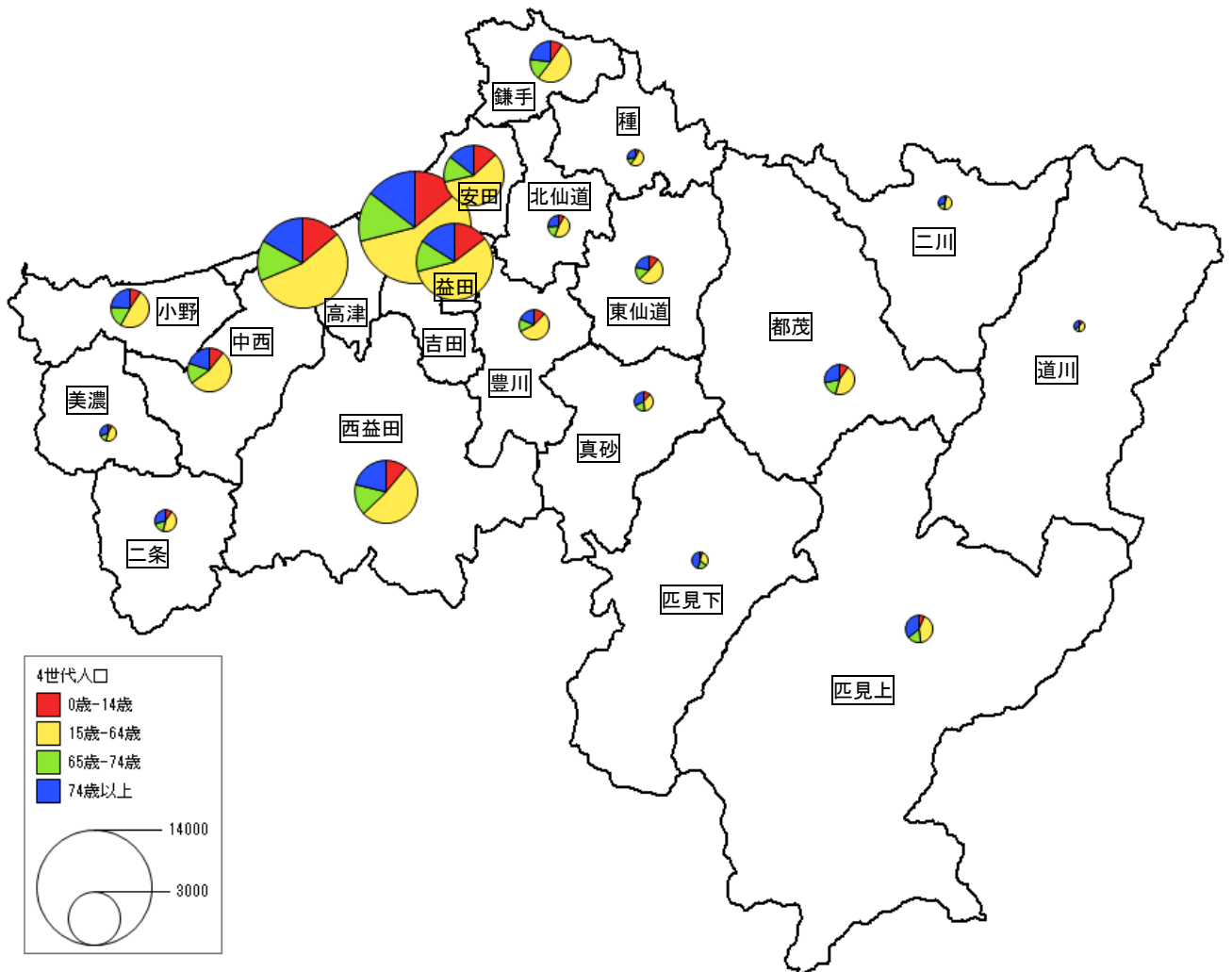
1-3. 益田市の子どもの現状

①各地区における子どもの数

本市は、益田・吉田・高津・安田の4地区に人口の67%が集中して居住しています。また、年少人口(0歳～14歳)に限れば、75%が4地区に居住しており、それ以外の地区に25%が居住しているのが現状です。各小学校の児童数については、吉田地区以外は減少傾向にあります。また、中山間地域の自治会の中には年少人口がない自治会も存在し、地域を次世代につないでいくことも危ぶまれています。

また、年少人口に減少によって、近所に同年代の子どもが暮らしていない状況もあり、子どもたちが群れて遊ぶ機会をつくりにくくなってきています。

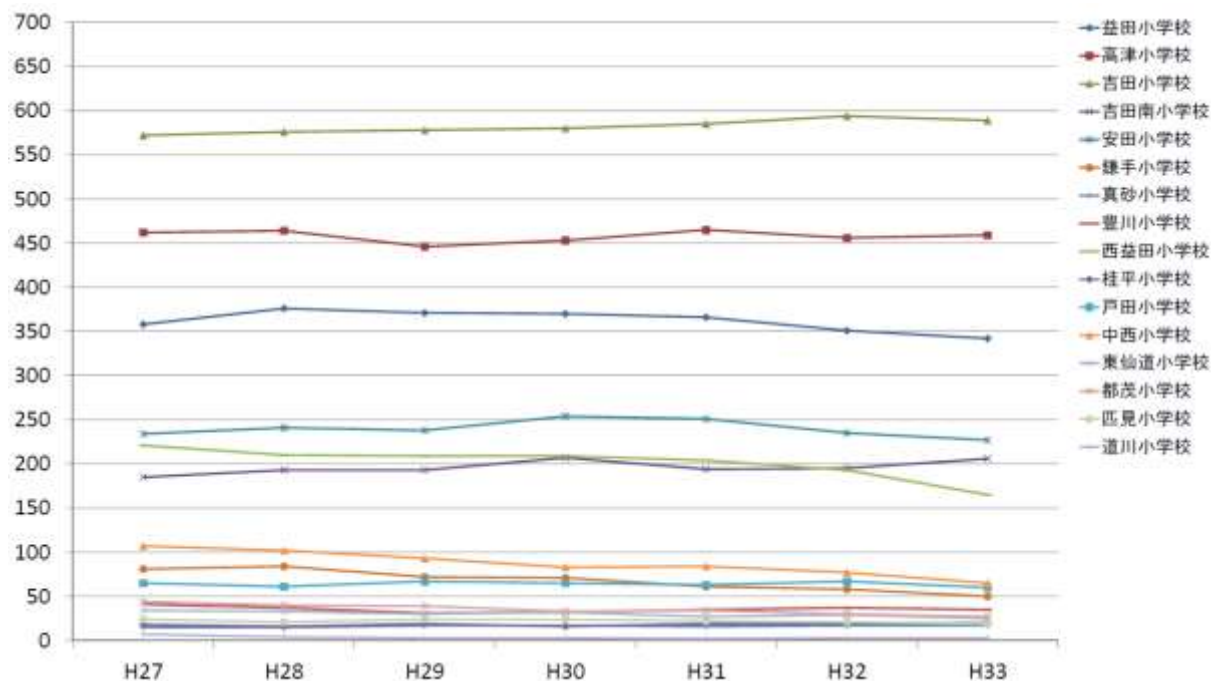
[図 益田市における各地区振興センターエリアの人口 H26年4月末]



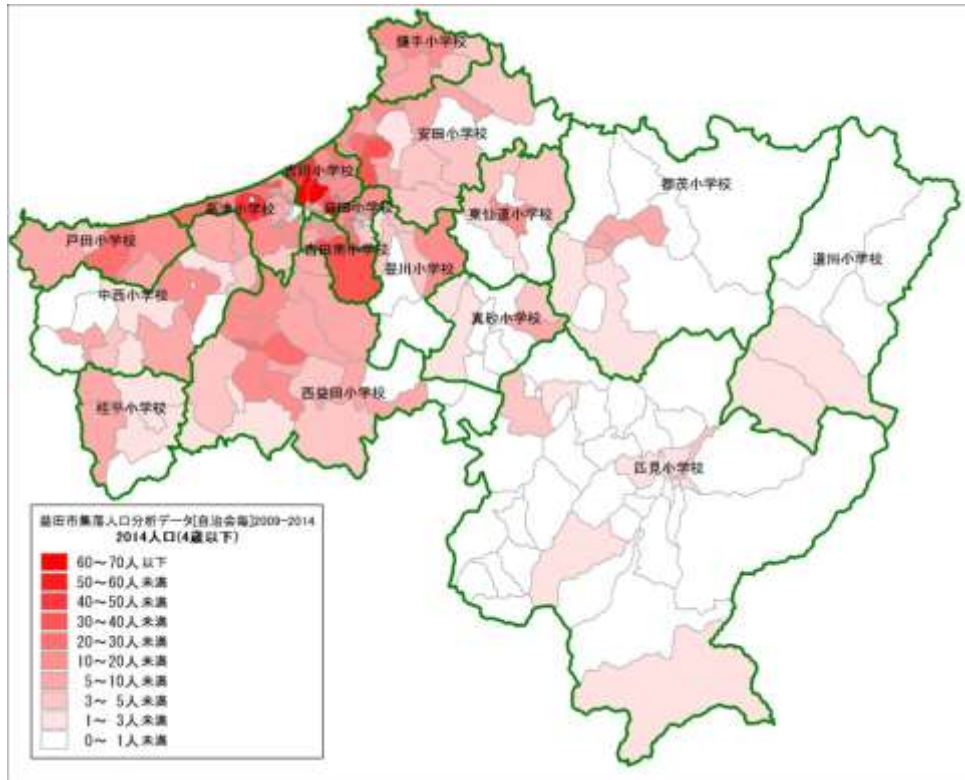
[表 益田市の小学校の児童数推計 (H27年5月1日を基準に推計)]

学校名	小学校児童数見込(H28~H33年度)						H27.5.1現在												
	1才	2才	3才	4才	5才	6才	H27年度						計	H28	H29	H30	H31	H32	H33
	H33	H32	H31	H30	H29	H28	1年	2年	3年	4年	5年	6年							
益田小学校	55	39	55	64	54	75	64	54	59	65	59	57	358	376	371	370	366	351	342
高津小学校	69	61	100	69	81	79	66	70	88	62	99	77	462	464	446	453	465	456	459
吉田小学校	87	114	99	99	85	105	92	105	94	97	83	101	572	576	578	580	585	594	589
吉田南小学校	35	30	29	41	33	38	24	29	42	27	33	30	185	193	193	207	194	195	206
安田小学校	32	26	35	52	38	44	40	42	38	36	41	37	234	241	238	254	251	235	227
鎌手小学校	7	8	5	13	3	14	15	11	15	14	15	11	81	84	72	71	61	58	50
真砂小学校	3	3	3	3	2	3	3	2	4	3	0	3	15	15	17	17	16	17	17
豊川小学校	5	7	6	8	3	6	7	5	3	7	9	10	41	37	31	32	35	37	35
西益田小学校	15	31	26	31	34	28	43	42	31	31	35	39	221	210	209	209	204	193	165
桂平小学校	3	2	4	5	4	2	2	2	1	8	1	4	18	16	19	16	19	19	20
戸田小学校	9	10	9	11	15	6	16	6	11	13	9	10	65	61	67	65	63	67	60
中西小学校	7	9	18	4	12	15	19	16	17	14	21	20	107	102	93	83	84	77	65
東仙道小学校	2	7	3	6	2	5	6	5	8	4	5	6	34	33	30	32	27	29	25
都茂小学校	4	5	6	2	6	4	7	9	5	8	7	8	44	40	39	33	34	30	27
匹見小学校	2	2	4	4	5	2	4	3	6	4	2	5	24	21	24	24	22	21	19
道川小学校	0	1	1	0	1	0	0	0	2	0	2	3	7	4	3	3	2	3	3
計	335	355	403	412	378	426	408	401	424	393	421	421	2468	2473	2430	2449	2428	2382	2309

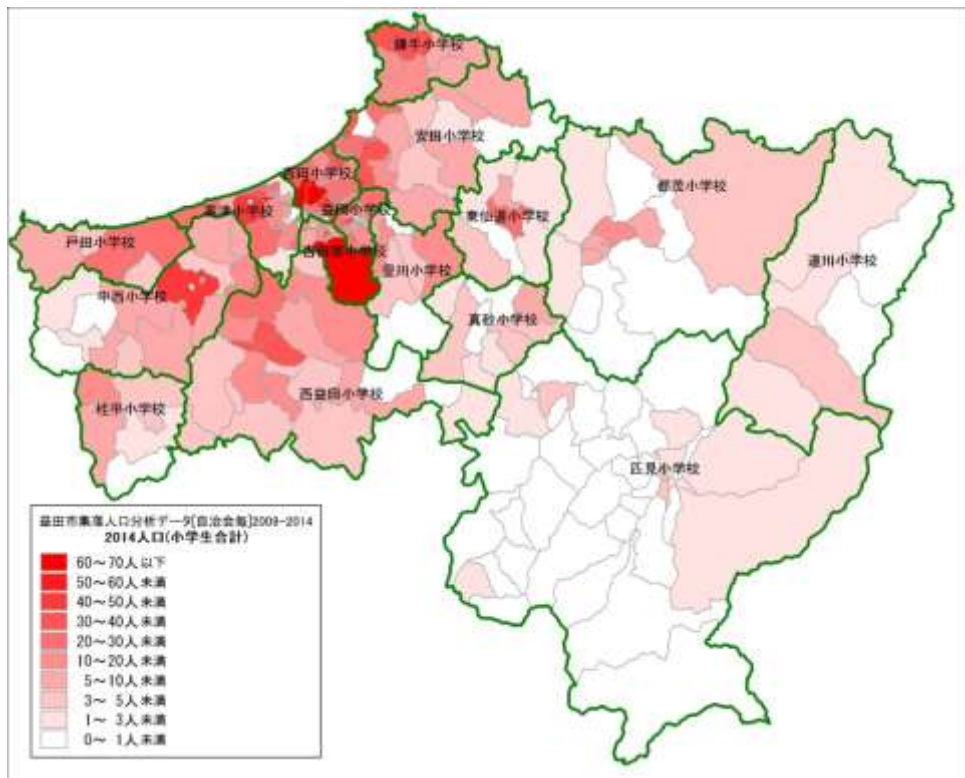
[図 今後尾5年間に於ける益田市内各小学校の児童数推計 (H27年5月1日を基準に推計)]



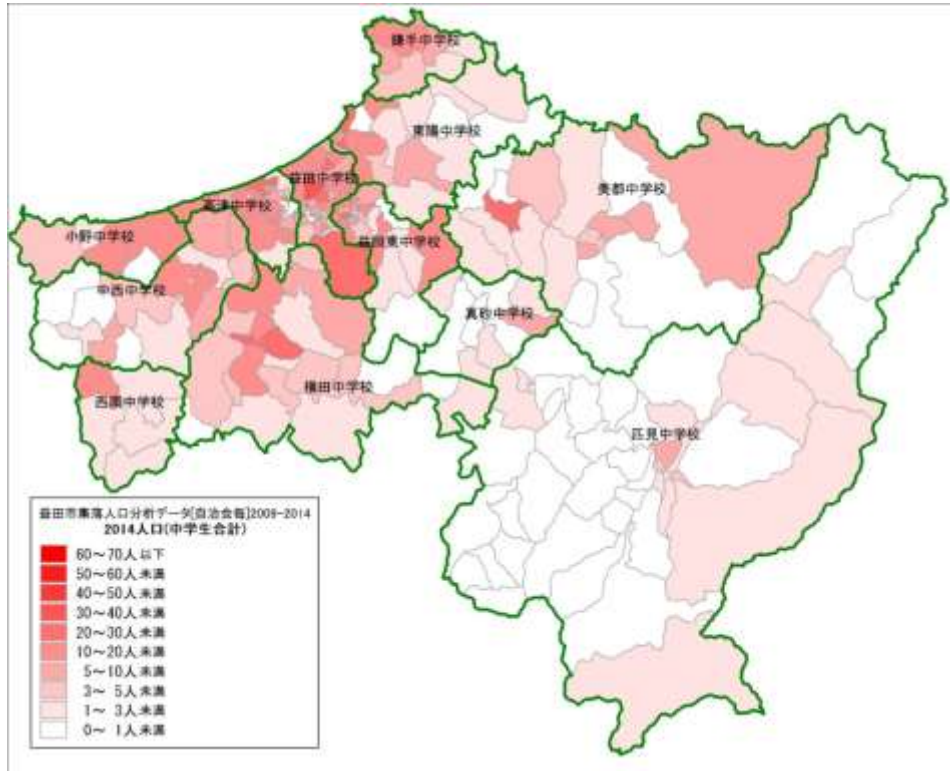
[図 自治会毎の4歳以下人口 H26年4月末]



[図 自治会毎の小学生人口 H26年4月末]



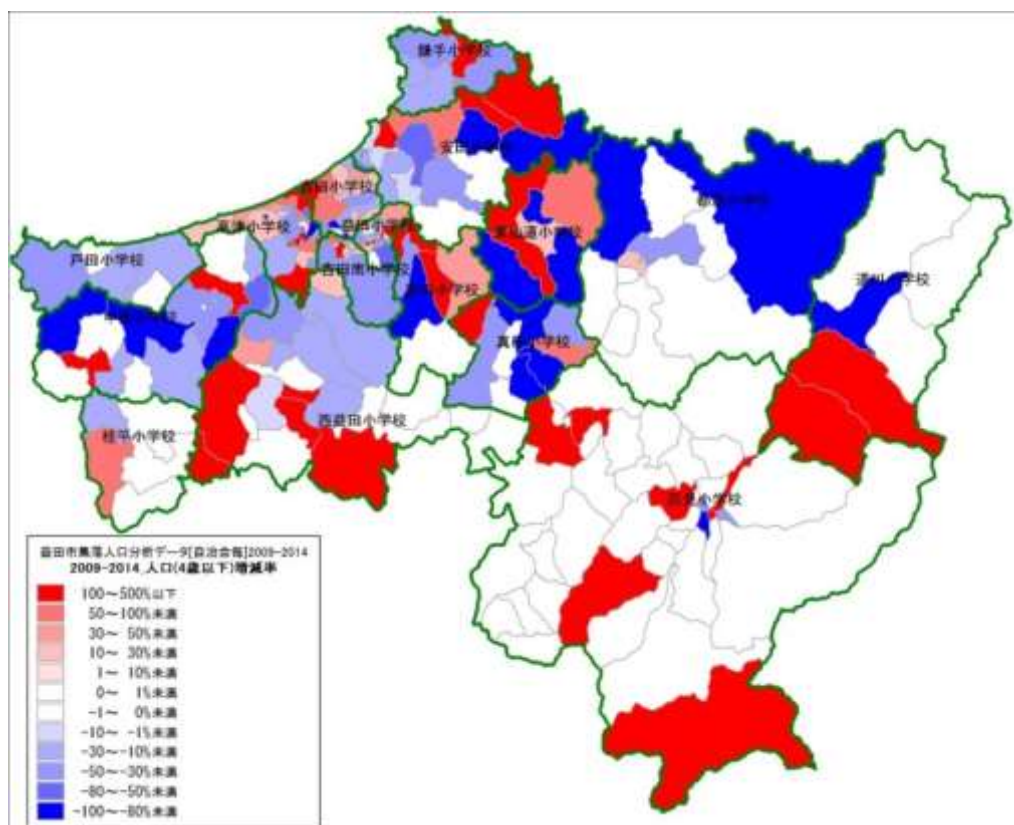
[図 自治会毎の中学生人口 H26年4月末]



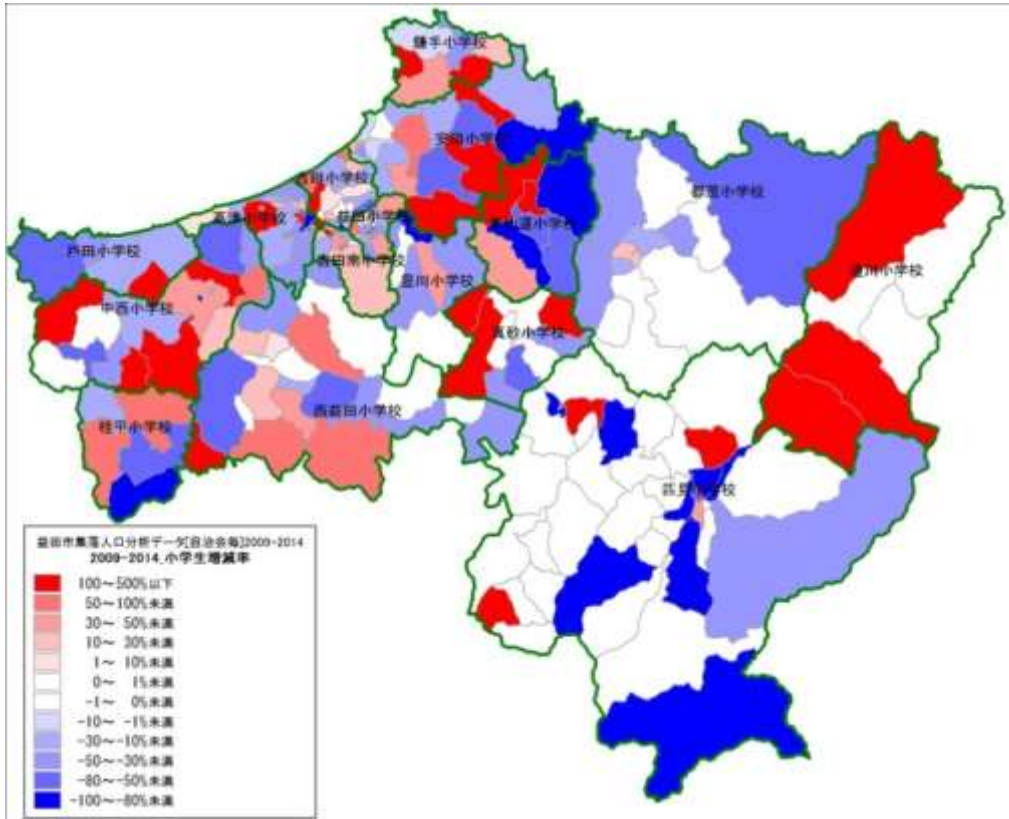
②各地区における子どもの増減

全市的には子どもの数が減る中で、近年、地域によっては子どもが増えている傾向がみられる地域も存在しています。これは市街地だけの傾向ではなく、中山間地域においても同様であり、自然増だけでなく、UI ターンなどの社会増の傾向が見られます。

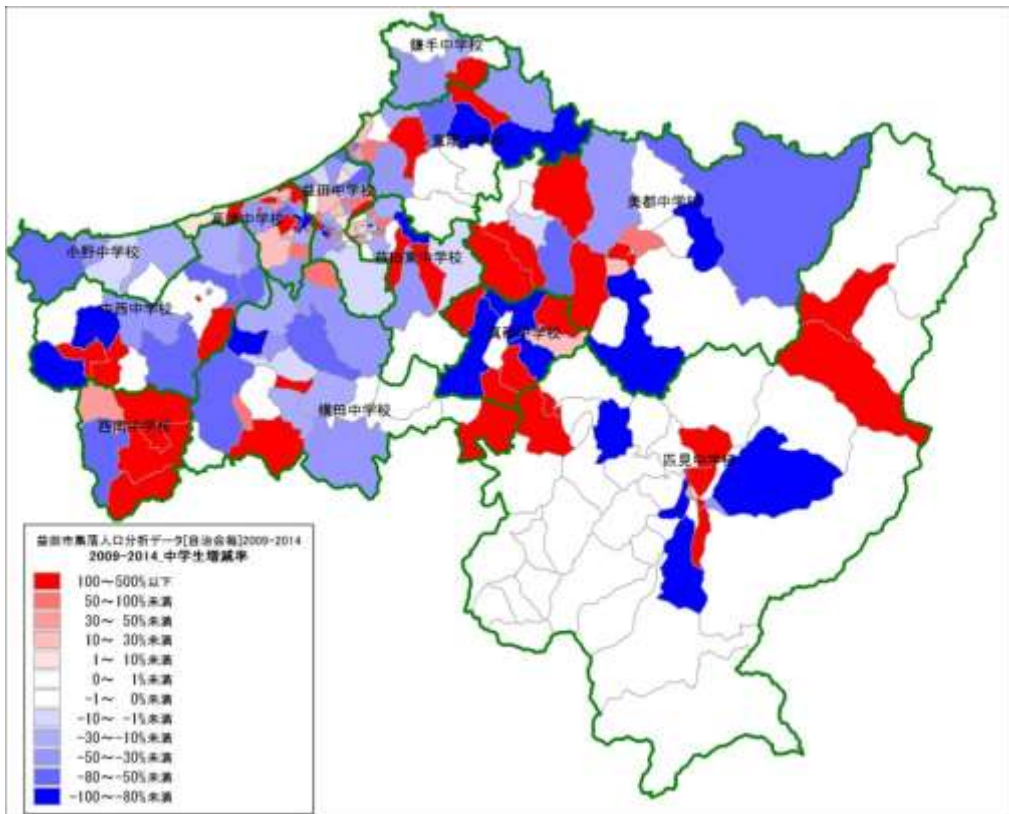
[図 自治会毎の4歳以下人口増減率(H21年4月末-H26年4月末)]



[図 自治会毎の小学生人口増減率(H21年4月末-H26年4月末)]



[図 自治会毎の中中学生人口増減率(H21年4月末-H26年4月末)]

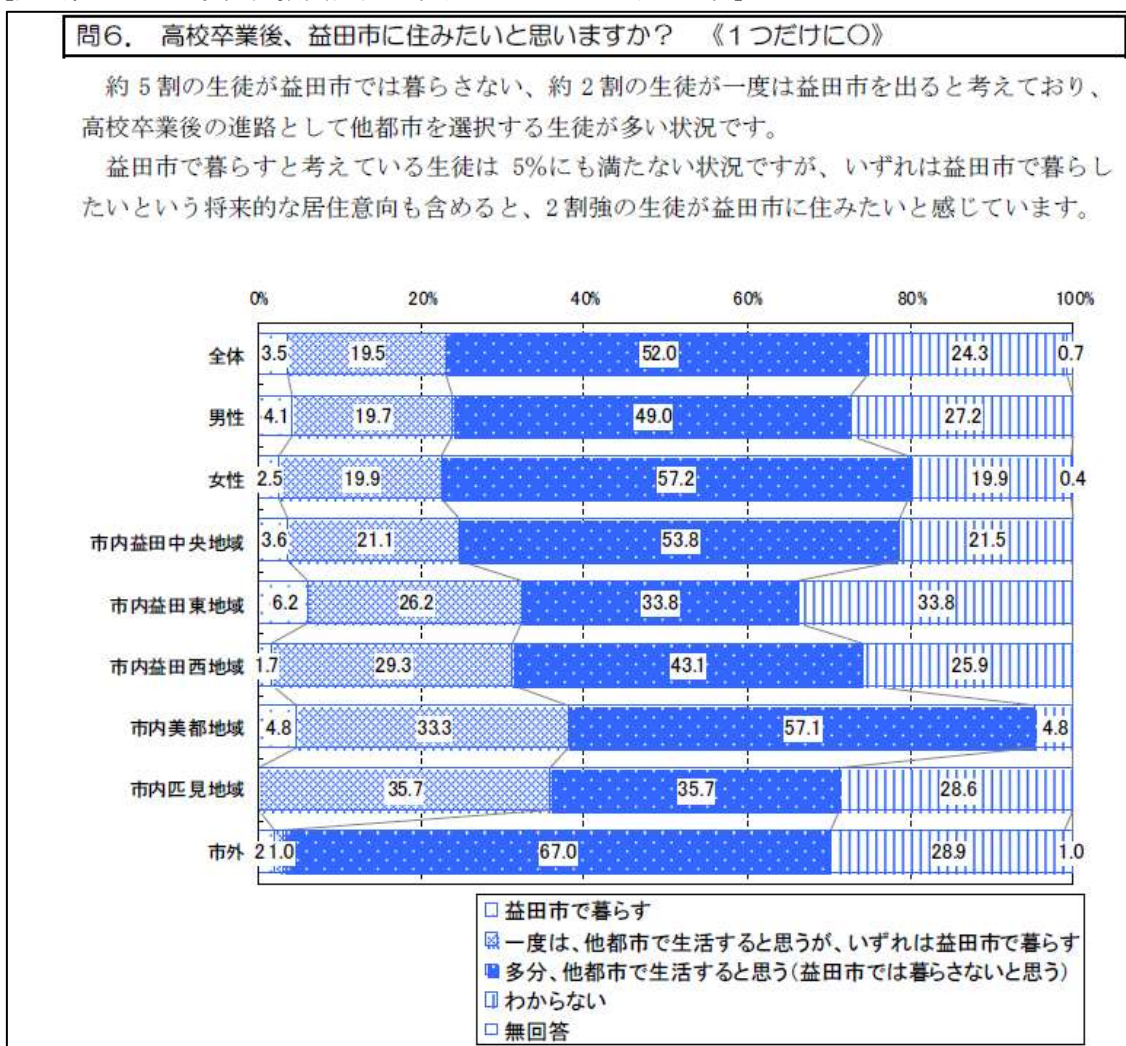


③子どもたちの意識

平成 22 年の益田市総合振興計画策定の際におこなった当時の高校生向けアンケートにおいて、「高校卒業後、益田に住みたいと思いますか?」という問いに対し、「いずれは益田に住みたい」という将来的意向を含めても、その割合は 20%強にとどまっています。益田の印象としては、「自然や緑が豊か」が約 50%と最も高く、次点が「特に印象はない」となっています。

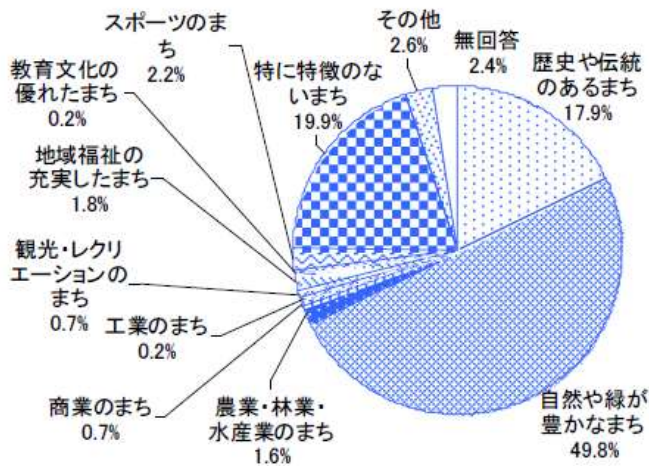
また、平成 27 年度に実施した全国学力調査においては、中学生における「地域行事の参加」についての意識は 53.5%と、全国平均より 10%近く高くなっています。

[図 第5次益田市総合振興計画の住民アンケート(平成 22 年)]



問3. 益田市にどのような印象を持っていますか? 《最もあてはまるもの1つだけに〇》

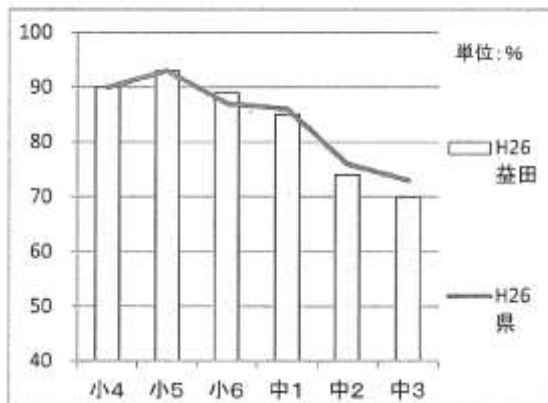
益田市に「自然や緑が豊かなまち」という印象を持っている生徒が最も多く、全体の約5割を占めています。一方で、「特に特徴のないまち」という印象を持っている生徒が次に多く、2割の生徒が益田市の特徴を何も認識していない状況です。



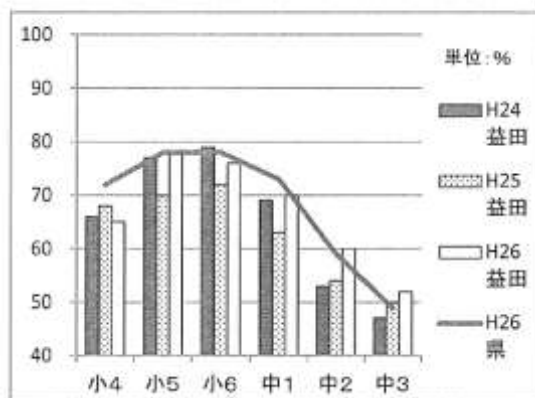
[図 平成26年度学力調査より]

生活に関する意識

① 将来の夢や目標をもっている
(肯定的回答の割合)



② 今住んでいる地域の行事に参加している
(肯定的回答の割合)



第 2 部

基本とする考え方

～人生観を育むライフキャリア教育へ～

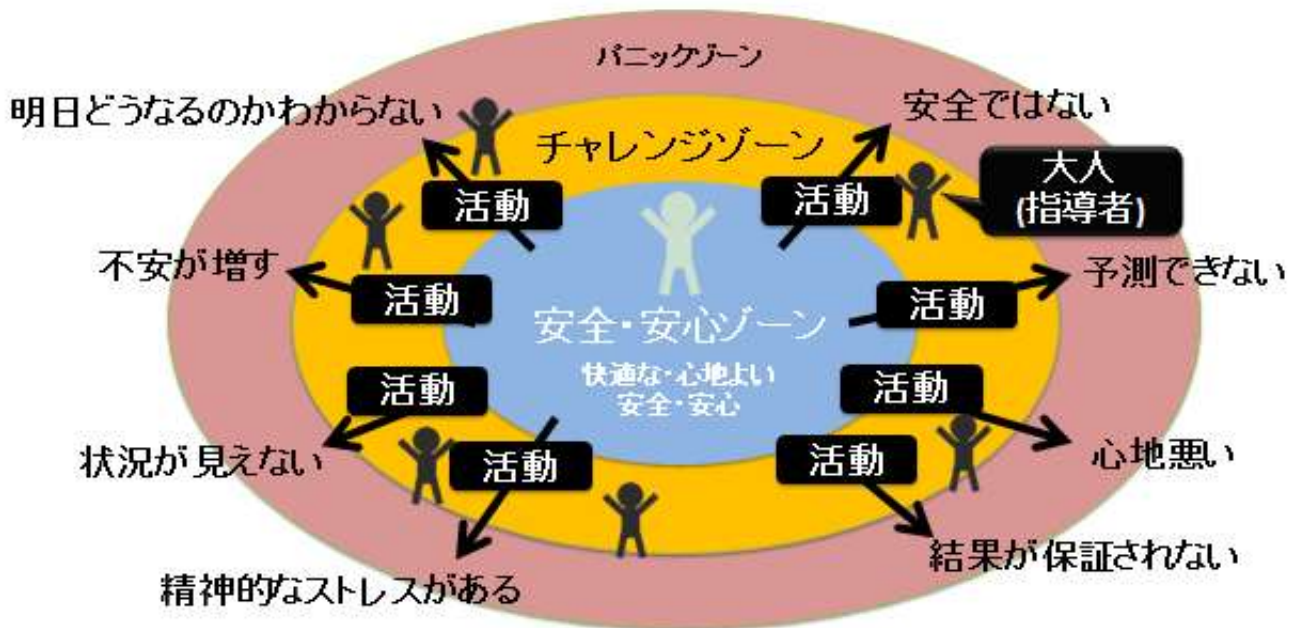
2-1. これからの教育観

①安全圏から踏み出してチャレンジできる教育

誰にでも安全・安心な環境は必要です。そのまま、その場所にいれば快適で心地よい時間を過ごすことができるかもしれません。

しかし、時には、新たなチャレンジをしなくては前に進めず、物事が解決しないこともあります。そこでチャレンジすることは、自分にとって未知の世界へ踏み出すことであり、安全圏から抜け出し、不安や危険を感じることになるかもしれません。それでも自分や家庭や地域社会にとって、必要なチャレンジであれば勇気を持って踏み出し、変化を生み、現状を打破して行ってほしいと思います。決して全てが思い通りになるわけではないかもしれませんが、チャレンジした経験は自分の安全圏へと変わります。そして、地域社会における更なる自分の安全圏を能動的につくりだしていくことにつながります。

青年期までの育ちの中にも、教育プログラムや活動を通じて、こうした体験を積み重ねていくことが、自己発見や自己成長につながり、人生の中でさまざまな課題に直面した場合にも乗り切る力になると考えます。大人のサポートがありながらも、こうした安心してチャレンジできる教育環境が必要です。

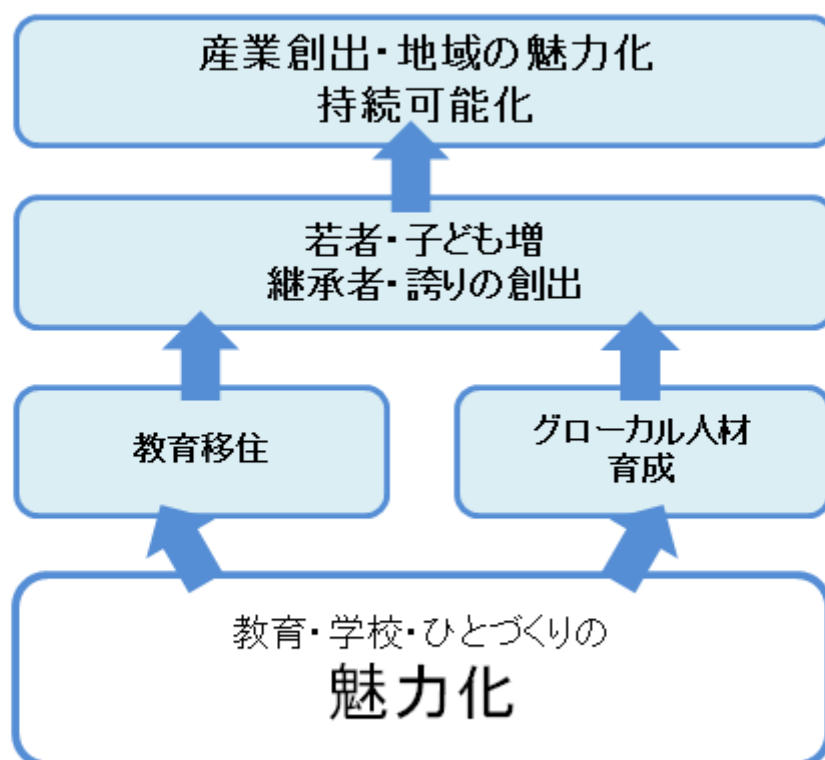


②魅力化の教育で持続可能な地域社会を形成していく

現在は、高度情報化で世界と対話し、高速交通の発達でさまざまな国が活躍の場ができる時代です。そして、日本が直面している超人口減少・超少子高齢化も世界をリードする現象であり、益田市における地域課題もまた世界最先端の現場なのです。

これからは、「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、足元から行動せよ)」という言葉に代表されるように、地球的な視野や見識を持ちながら地域で活躍する魅力的な「グローバル人材」(※8)を益田から創出していく教育を推進します。

教育・学校・ひとづくりからの地方創生



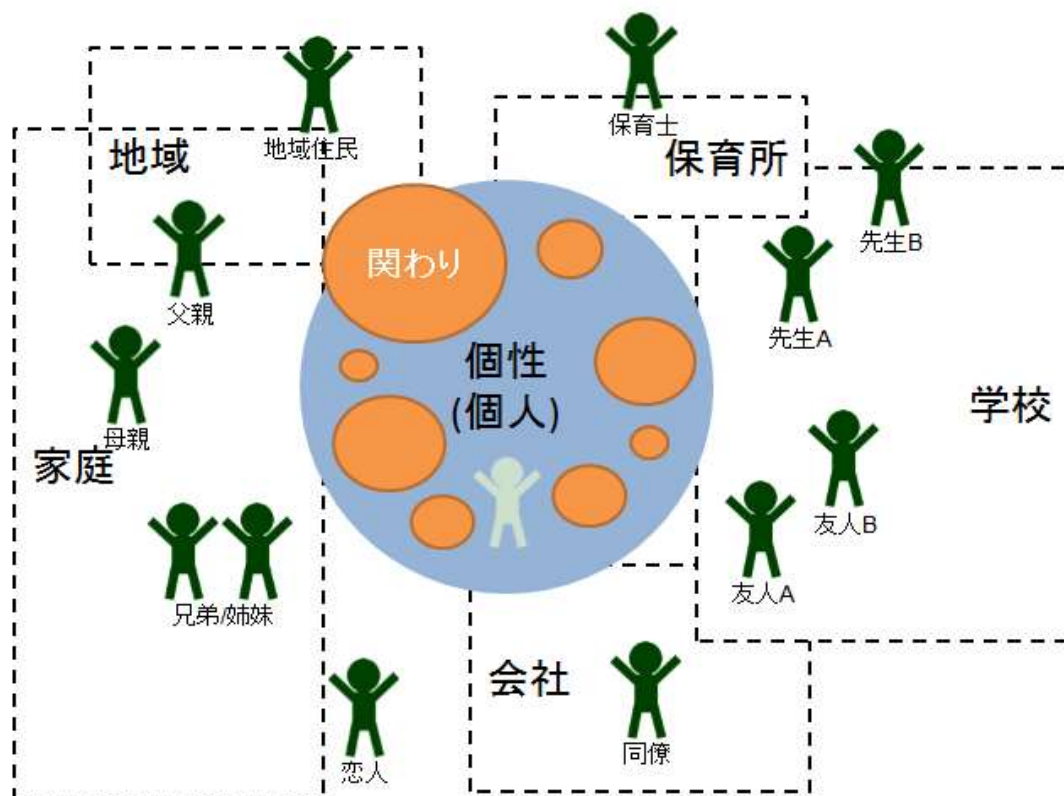
※8「グローバル人材」…国際社会（グローバル）で通用すると同時に、生まれ育った地域社会（ローカル）などに貢献できる人材。

③地域総がかりで多様に関わり、人生の足場をつくる

人は多様な環境に関わることで、多様な経験をし、多様な力を身に付けることができます。この環境には家族や身近な人が提供するものだけでなく、自然環境や自然現象、植物や生物など、人工的には用意しにくい環境も含まれます。益田市は、日本海、中国山地、清流日本一の高津川と、豊かな自然に囲まれたまちであり、恵まれた環境を活かすことができる場所です。

大人になるまでにさまざまな人と、さまざまな環境で過ごす時間をできるだけ多くすることは、子どもたちの育ちにおいても、教育の質と量を担保し、大人になったときの生き方の選択肢を広げていくことにつながります。

子どもたちを取り巻くさまざまな分野が連携し、地域総がかりで多様に関わり、子どもたちの挑戦を応援する環境を整えていきます。

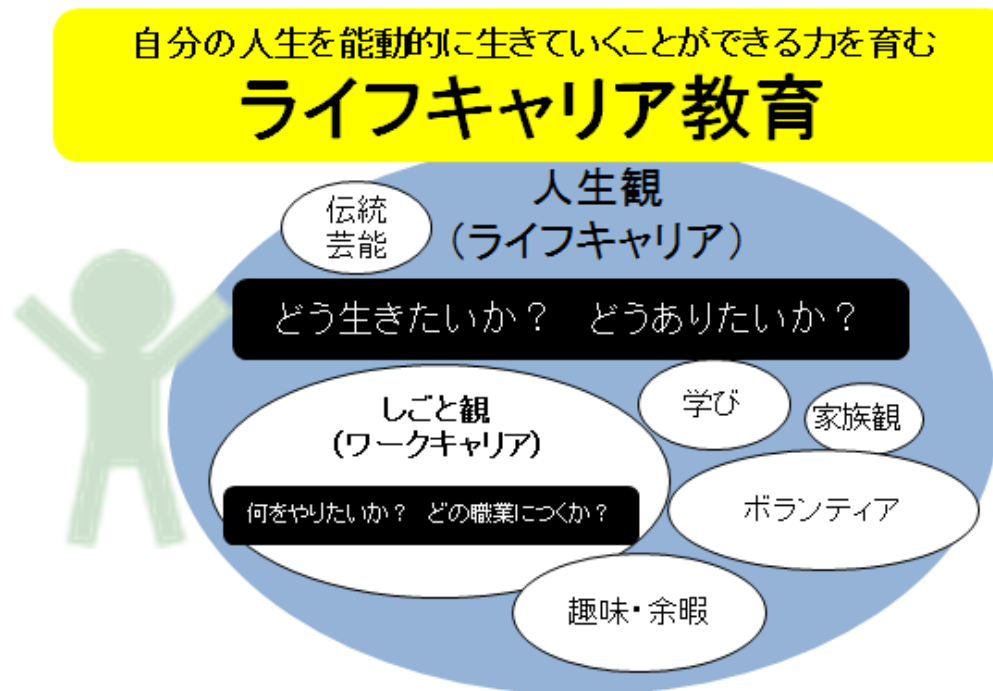


2-2. 人生観を育むライフキャリア教育へ

①「ワークキャリア教育」から「ライフキャリア教育」へ

時代とともに、私たちの環境は変わり、状況も変わります。昔の大人たちでは想像できなかった未来が現在あり、私たちが見ることができない未来を子どもたちは生きていきます。そうした中で、価値観も変化をしていきますし、職業そのものの種類やあり方も変わっていくでしょう。

こうした変化に臆することなく、自分の人生を能動的に生きていくことができる力を育むのが「ライフキャリア教育」です。益田市はこれからワークキャリアも包含した「ライフキャリア教育」を推進します。



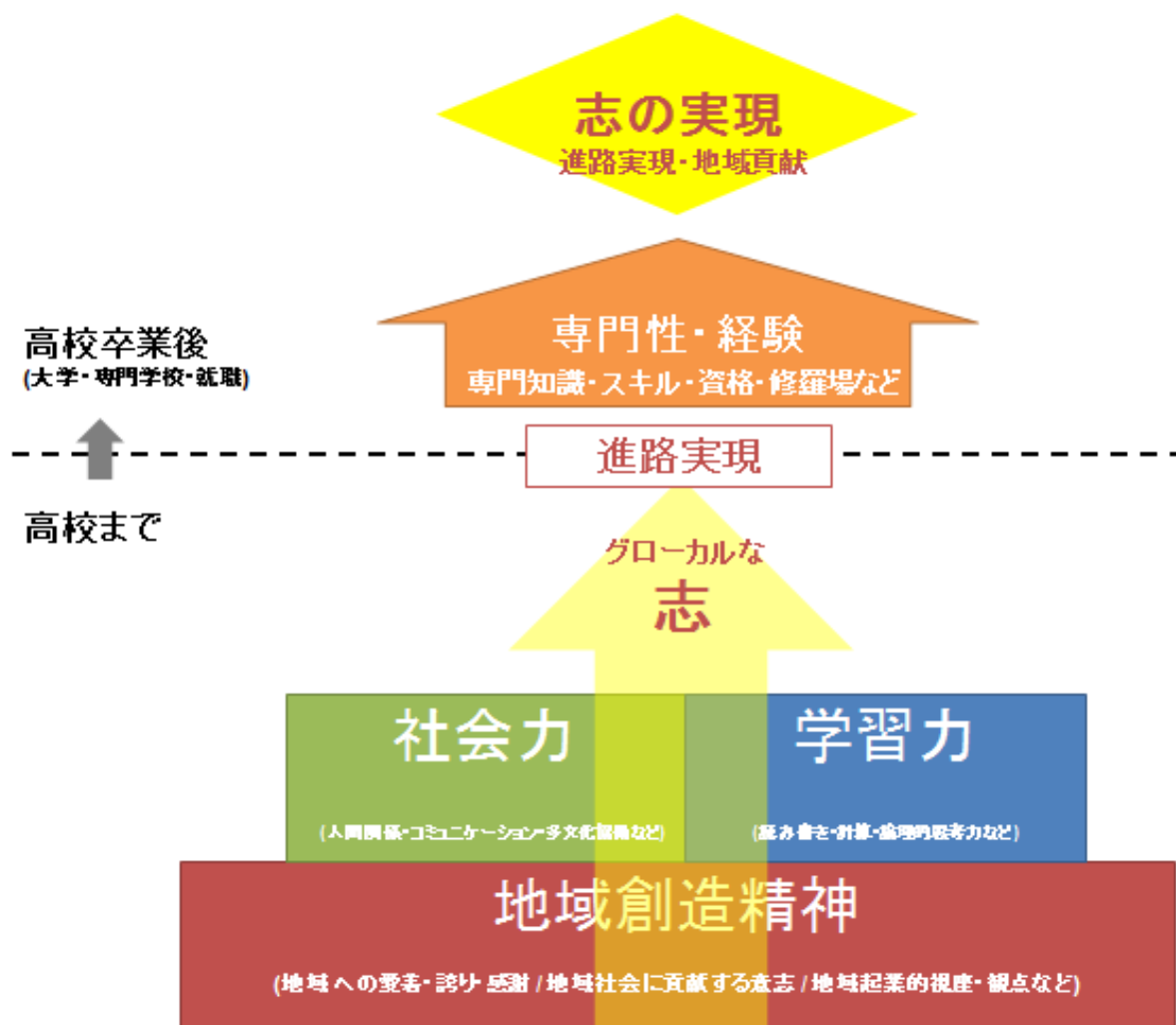
ワークキャリア	ライフキャリア
何をやりたいか	どうありたいか
夢は何か	どう生きたいか
どの職業につきたいか	どんな風に暮らしたいか
働く意義	生きる喜び

②社会力と学習力が調和した志が導く人生観

現在、益田市の子どもたちの多くは高校を卒業すると、自分の更なる進路実現のために市外・県外・場合によっては国外へ出て行くこともあります。私たち益田の大人が用意できる教育環境の多くは、この高校を卒業するまでの時間です。

家族や、子どもの頃からの友人に囲まれた故郷の地から離れ、異なる環境に身を置き、より自分らしい人生観を追い求めるためには、自ら学習する力はもちろんですが、対人関係やコミュニケーションを必要とする社会力も併せ持つことでより豊かな経験を積むことができます。

そして、自分はどのようにして益田を出るのか、将来はどんな立ち位置で、社会においてどんな役割を果たしていきたいのか、より具体的な志を子どもたちが持てる教育環境を整備したいと思います。また、地域の大人たちも、志をつかっていく応援をしてもらうことが不可欠です。ふるさとを出るまでの時間の中で、一番身近な地域社会である益田市と、益田市の大人たちとの関わりをつかっていく必要があります。



2-3. ライフキャリアを育む経験・感性・力

①地域の資源にどっぷりと浸り、その楽しみ方を堪能した経験

⇒遊び倒す・味わいつくす

②どんな場所であろうとも勇気をもって、自分なりの表現や実践ができる力

⇒アウトプット^(※9)を繰り返す

③社会の中で自分の役割や立ち位置をつくり、周りから必要とされる喜びを感じられる力

⇒必要とされる喜び

④自分や地域や社会をより良くしようと、ミッション^(※10)をみつけて動き出す力

⇒実際に行動する

⑤環境の中で「関わっていきたい」「実現したい」と、自分なりの興味・関心を見つける力

⇒やりたいことを見つける

⑥与えられた環境の中で、日々を能動的に過ごし、自分を磨く力

⇒偶然を必然に変える学び

⑦多様な価値観を受容しながらも、自らの質や流儀を磨き、それを社会に役立てる力

⇒我流を磨く

※ 9「アウトプット」…吸収した経験や学習をもとにして出来た、成果や実績。

※ 10「ミッション」…使命。重要な任務。

2-4. 地域人材を創出していくサイクル

ライフキャリア教育を展開していくためには、幼少期から小中高と切れ目ない教育プログラムの展開が不可欠です。子どもたちの発達段階に応じて地域や、地域の大人との関わりを提供し、それで育った人材が地域で活躍することで次世代のロールモデル(※11)となりうるからです。

また、UI ターンなどで益田市をチャレンジの場に行っている方や、他地域で活躍されている魅力的な大人も、益田の子どもたちにどんどん刺激を与えてもらい、より多様なライフキャリア教育を展開していきます。

※11「ロールモデル」…自分にとって具体的な行動や考え方の模範となる人物のこと。

2-5. 益田市版ライフキャリア教育プログラム概要

①ひと(益田人100)との出会いを通したプログラム

今回の計画では、保幼・小・中・高など、すべての年代を通じて、活動の軸に「ライフキャリアを体現しているひと」との出会いを位置づけています。子どもたちが、各年代で「ひと」との出会いを積み重ね、「ひと」との出会いの輪を広げながら成長していくことを、プログラムとして体系立てます。「益田人100」とは、「益田で子どもたちに出会わせたいたくさんのひと」の総称であり、本計画のすべてのプログラムは「益田人100」と関連付けて行われます。

「益田人100」の人選のポイントは「ライフキャリアを体現しているひと」です。「ライフキャリアを体現しているひと」とは「日々の目標に対し、能動的に生き、自らの可能性を広げることのできるひと」を指します。仕事の活躍のみを指すのではなく、趣味、ボランティア、伝統芸能、子育てなど、多岐に渡るジャンルの「ひと」との出会いを計画します。

②各段階(「in」「about」「for」「with」)の位置づけ

多様な「ひと」と出会う際には「何を目的に出会うか」が重要になります。地域での学びを豊かなものとするために「in(地域の中で体験する・浸かる)」「about(地域について知る・伝える)」「for(地域のために行動・貢献)」「with(地域と共に未来を描く・結ぶ)」という発達段階を意識した取り組みを行う必要があります。それぞれが何を指すかの説明を行います。

・地域の中で体験する・浸かる(in)

保育所や幼稚園などに通う幼児期には、知識よりも五感を通じて、自分が暮らす空間で起こる現象や地域における様々な存在を確認することが大切です。

知識よりも、「○○というものがある」「○○という人がいる」「○○みたいなことが起こる」「すごい」「ふしぎ」「すき」「おいしい」「たのしい」「うれしい」「こわい」など、身のまわりの存在や起こりうることに接触する機会を増やすことで、自らの感情が育まれ、環境と自分の存在を認識していくこととなります。

この時期は、幼児期後のテーマ(about/for/with)で必要となってくる「豊かな感性」を育む大切な時期であり、五感を通じた遊び体験などを徹底することで実践していきます。

・地域について知る・伝える (about)

主に小学校期を通じて、地域で暮らし活躍する人との出会いを通じ、現在の益田市像を知る活

動です。できるだけ多様な人材と出会い、話を聴いたり、質問をしたりするコミュニケーションの場を重視します。

ここにおける多様な人材とは、単なる仕事上の職種にとどまらず、地域における貢献や役割なども盛り込み、自分たちの生活する地域がどんな人たちによって支えられているのかを知っていく活動とします。

・地域のために行動・貢献 (for)

主に中学校期からは「誰かのために」「地域のために自分たちができること」を考えながら、実際の貢献活動を通じたプログラムを展開します(for)。また、地域貢献や社会貢献といった観点を伝えられる大人との出会いをすることで、自分の興味関心と社会の中で必要とされることなどをあわせながら行動する機会を提供していきます。

こうした活動を通じて、地域社会を「知識」だけでなく「自分が行動する場・活動する場」としてつかみとっていくことに重点をおき、実際の行動へつなげていきます。

・地域と共に未来を描く・結ぶ (with)

高校生期は、これまで(in/about/for)のプログラムで積み重ねてきた経験と成長を、実践的な社会と結びつける時期とし、その中で自分の進路目標や生き方を考えていくプログラムを提供します。

地域社会における課題解決や挑戦を通じて「子どもではない自分」を試してみることで、生徒自身がより能動的な生き方や進路目標を持つことへつなげていきます。

2-6. プログラム例

・これまでに述べてきた益田市版のライフキャリア教育のプログラムについて、発達段階ごとに一例ずつ紹介します。

【 in 】 地域の中で体験する・浸る

プログラム例 地域資源を活かした保育プログラム① **水辺で遊ぼう**

出会うひと	・水棲生物に詳しい地域の大人 ・川遊びの技術をもっている人
出会いを通して育まれる感性	遊び倒す・味わいつくす
活動するフィールド	地域の小川
活動主体	市内保育園・幼稚園
行政の推進役	(主)子育て支援課 (副)社会教育課
活動概要	・地域の小川で、水遊びや水の中に棲む生き物探しなどを行う。 ・幼少期における体験活動や食育活動の充実。 ・体験活動や食育活動における指導的立場を担える人材やコーディネートできる人材の育成。

【 about 】 地域について知る・伝える

プログラム例 **子ども仕事体験**

出会うひと	<ul style="list-style-type: none">・地域で様々な職に就く大人・地域で生き活きと仕事をする大人
出会いを通して育まれる感性	アウトプットを繰り返す
活動するフィールド	市内全域
活動主体	小学校
行政の推進役	(主)産業支援センター (副)社会教育課 学校教育課 子育て支援課 人口拡大課
活動概要	<ul style="list-style-type: none">・益田市において「どんな思いで」「どんな大人が」「どんな風に」仕事をしているのかを仕事体験を通して知る。・子どもたちへ多様な職種を提示し、その仕事の社会における役割や働き方、自分たちとのつながりについて感じられる場とする。

【 for 】 地域のために行動・貢献する

プログラム例 **新・職場体験**

出会うひと	<ul style="list-style-type: none">・地域で様々な職に就く大人・地域で生き活きと仕事をする大人
出会いを通して育まれる感性	アウトプットを繰り返す 必要とされる喜び 実際に行動する
活動するフィールド	市内全域
活動主体	中学校
行政の推進役	(主)学校教育課 (副)産業支援センター 社会教育課 子育て支援課 人口拡大課
活動概要	<ul style="list-style-type: none">・地元企業の有志が中学校を訪問し、自社の取り組みや仕事内容について語る。・仕事内容だけでなく社会における役割や予測、課題なども盛り込み、未来における仕事観も育む。

【 with 】 地域と共に未来を描く・結ぶ

プログラム例

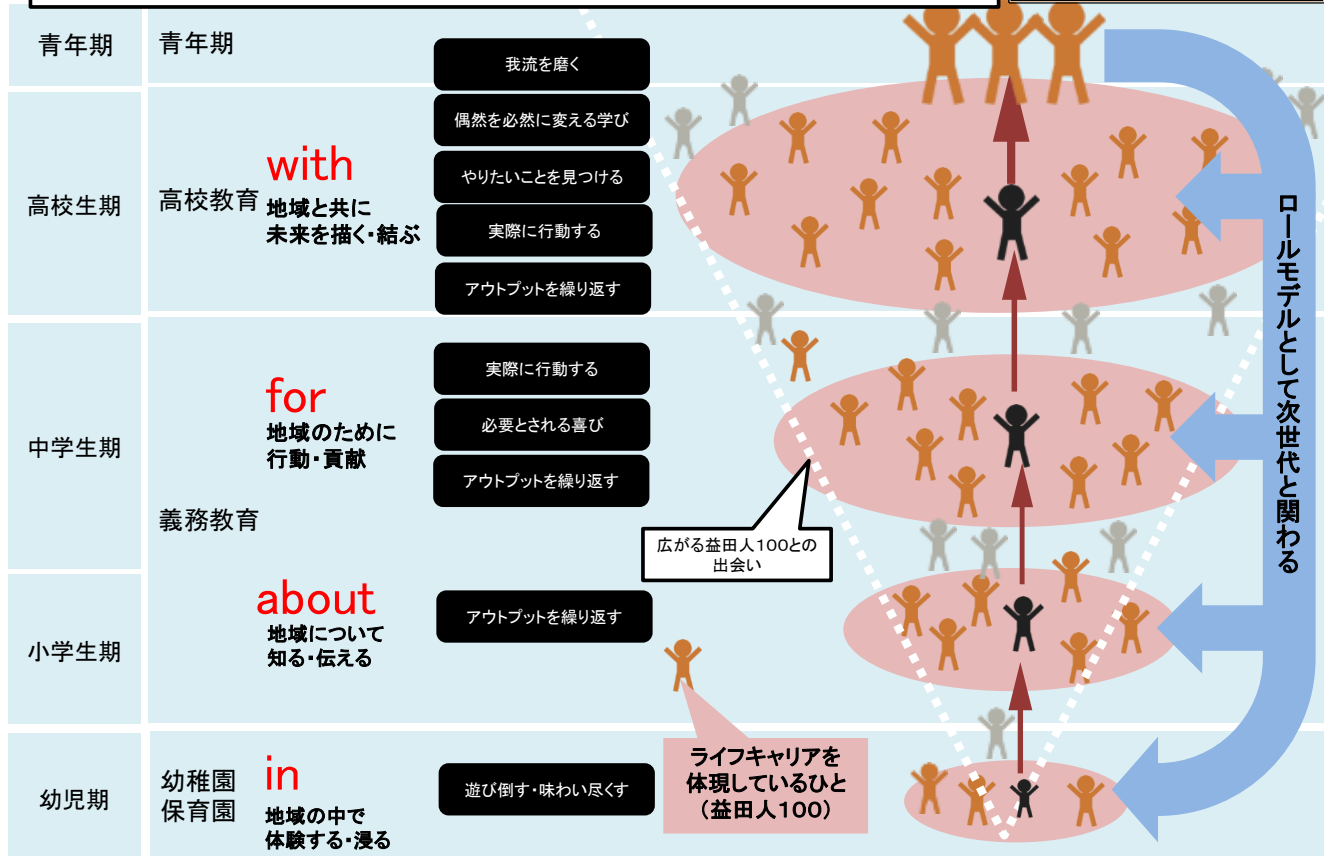
益田カタリ場

出会うひと	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の若手職員・社員・自営業者等 ・県内の大学生・専門学校生 ・県外の大学生・専門学校生
出会いを通して育まれる感性	アウトプットを繰り返す
活動するフィールド	市内全域・市外・県外
活動主体	高校・NPO 法人カタリバ
行政の推進役	<p>(主)社会教育課</p> <p>(副)学校教育課</p> <p>子育て支援課</p> <p>人口拡大課</p> <p>産業支援センター</p>
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生スタッフや社会人スタッフが、高校生に「生き方」について語り、高校生の意欲向上を行う。 ・NPO 法人カタリバとの協働し、研修・運営等のノウハウを蓄積する。 ・地域で持続可能な社会人スタッフの育成。

「益田人100」を軸としたライフキャリア教育の流れイメージ図

○保幼・小・中・高など、すべての年代を通じて、活動の軸に「ライフキャリアを体現しているひと（益田人100）」との出会いを位置づけるプログラム。
 ○子どもたちが、各年代で出会いを積み重ね、出会いの輪を広げながら、目指す姿を達成する。

【目指す姿】
 ○日々の目標に対し、能動的に生き、自らの可能性を広げることのできるひと



第3部

益田市の未来を担うひとづくり計画 実施にあたって

3-1. 計画実施にあたっての要点

益田市の未来を担うひとづくり計画を実施するにあたって①「行政の一体化」と②「市民参画」の2点を軸として進めます。

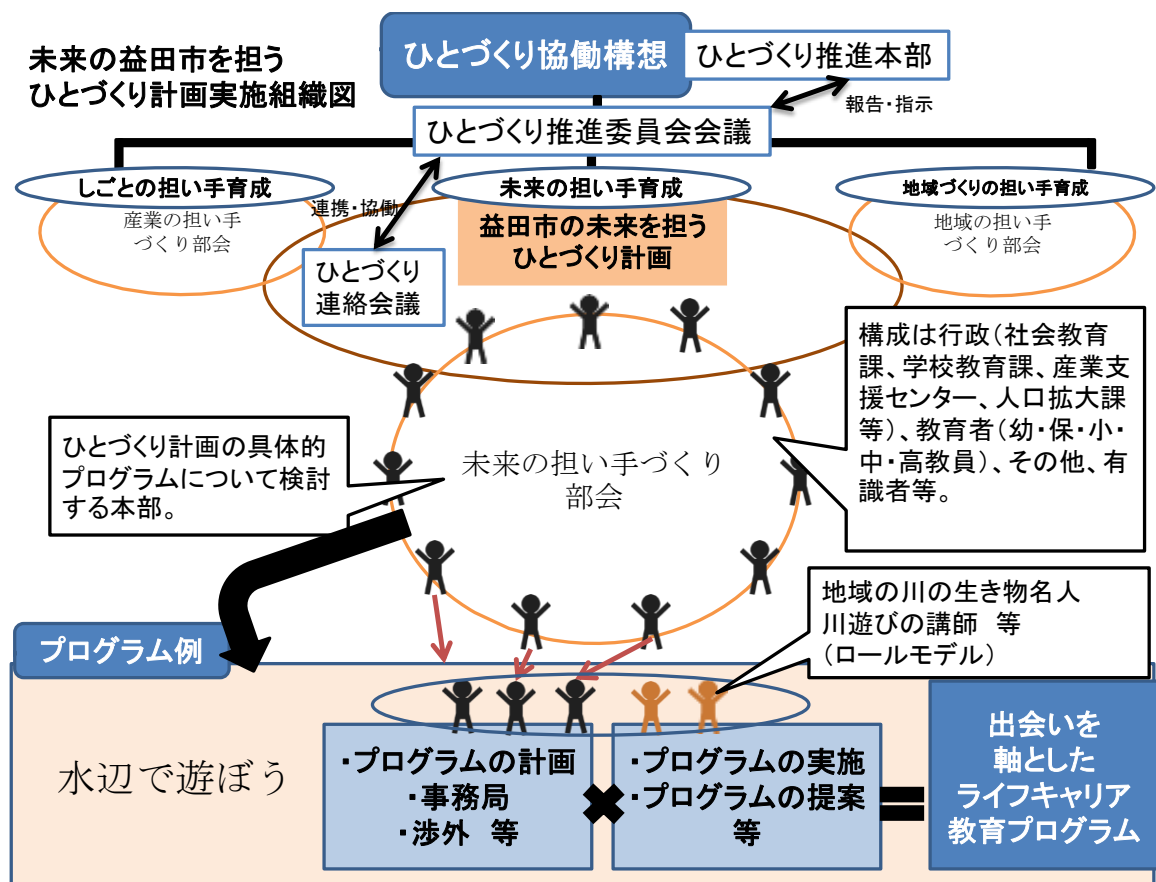
①行政の一体化(行政の役割)

本計画は、幼児期から青年期の各ライフステージを通して、学校教育、社会教育の両輪で行われます。そのため、益田市版のライフキャリア教育プログラムを実施するためには、行政の関係各課がそれぞれの強みを生かし、相互に補完することが不可欠となります。意見を交換し情報を共有することを基本としながら、プログラムに能動的に関わるワーキングチーム等を作成し、計画的な取組を進めます。

②市民参画(市民の役割)

本計画を推進するためのプログラムは、たくさんの「ひと」との出会いを軸としています。「ひと」の多くは益田市民を指します。大人が総出で子どもたちに関わり、次世代を育成することが本計画実施の上で最も重要な点です。「益田人100」の人選を随時行い、必要に応じてプロジェクトチームを立ち上げます。計画を経て成長した子どもたちが、ロールモデルとして次世代との関わりをもつことは本計画において実現したい市民参画の姿です。

(組織図イメージ)



第4部
資料

4-1. 本計画ができるまで

	内容
5月8日	第1回事務局会
5月11日	第1回ひとづくり計画準備会
5月28日	第2回事務局会
6月4日	第2回ひとづくり計画準備会
6月15日	第3回事務局会
6月26日	第4回事務局会
7月2日	第5回事務局会
8月6日	第6回事務局会
8月11日	第1回ひとづくり計画拡大準備会
8月17日	第7回事務局会
8月26日	第8回事務局会
10月1日	第9回事務局会
10月5日	第2回ひとづくり計画拡大準備会
10月13日～14日	第3回ひとづくり計画準備会
10月22日	第10回事務局会
10月27日	第11回事務局会
2月6日	未来を担うひとづくりフォーラム

※準備会は事務局＋有識者、拡大準備会は事務局＋有識者＋会員。

4-2. 益田市の未来を担うひとづくり計画策定委員名簿

【会員】

氏名	所属
大森 智彦	(株)オレンジハーモニー 代表取締役
洪 昌督	(株)益田工房 代表取締役
河野 利文	益田市保育研究会副会長
渋谷 憲朗	匹見中学校 校長
千葉 慶太郎	津和野町営英語塾 HAN—KO 塾長
永瀬 嘉之	益田高等学校 校長
中野 純	益田市 PTA 連合会会長
新原 大輔	吉賀町教育委員会 学習支援コーディネーター
松原 真倫	津和野高校魅力化コーディネーター

【有識者】

氏名	所属
今村 久美	認定特定非営利活動法人カタリバ 代表理事
岩本 悠	島根県 教育魅力化特命官
宇野 由里絵	島根県 教育魅力化支援員
中村 孝一	NPO 法人 eboard 代表理事
檜谷 邦茂	(株)益田工房まちづくり事業部長 島根県中山間地域研究センター中山間地域支援スタッフ

【事務局】

氏名	所属
齋藤 秀樹	人口拡大課
狩野 浩久	産業支援センター
野田 忠大	産業支援センター
浅野 隆司	学校教育課
中尾 瑞紀	学校教育課
麻生 英治	社会教育課
大畑 伸幸	社会教育課
川本 章司	社会教育課
澤江 健	社会教育課
谷上 元織	社会教育課